

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：20101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23590607

研究課題名(和文)脳卒中医療と福祉従事者への卒前・卒後教育の地域間格差を克服する生涯教育の開発

研究課題名(英文)The method of "pre and post " graduate medical education that correct regional disparity

研究代表者

齊藤 正樹 (Masaki, Saitoh)

札幌医科大学・医学部・助教

研究者番号：90295345

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円、(間接経費) 1,260,000円

研究成果の概要(和文)：われわれは地域のケアスタッフが多様な医療知識を得る機会に恵まれていないことを明らかにした。脳卒中に関する知識は十分ではないが脳卒中に関する深い知識や急変時の初期対応、認知症に関する知識を得たいと考えていた。われわれは脳卒中と認知症ケアに関わる介護スタッフ向けの教育システムを開発した。特に赤平市においては脳卒中、TIA、救急処置に関する教育を行い、1年で市内の56%のスタッフに教育することに成功した。一連の研究データに基づき2冊の教育書も発刊した。

研究成果の概要(英文)：We showed that care staff in local cities have few opportunities to get various medical information. Although their knowledge of stroke is not enough, they want to get additional information of stroke, first-aid procedure in medical emergency, and management of dementia. We developed educational system about medical emergency for stroke and dementia care staff. Particularly, in Akabira city, Hokkaido, we performed the education about stroke, TIA, and medical emergency to 56% of care staff in Akabira city during one year. We published two text books on these findings.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：介護従事者 福祉従事者 脳卒中 認知症 地域格差 生涯教育

#### 1. 研究開始当初の背景

わが国の医療と福祉には地域格差がある。その地域の医療・福祉施設の規模や、専門職の種類や数はそれを説明しうる要因であるが、数字には表わしづらい「教育の格差」も重要な要因として考えなくてはならない。等しく質の高い医療と福祉を国民が求めている一方で、それを支える高等教育・専門教育には国家試験資格習得後の卒後・生涯教育の面で、地域差はないか検討する必要がある。

#### 2. 研究の目的

本研究は、脳卒中と認知症といった医療から介護にわたる疾患をモデルとして、地域間の医療と福祉の格差を生み出す「脳卒中専門教育(職能教育)の地域格差」を明らかにして、これらを克服するための卒後教育システムを開発するものである。

#### 3. 研究の方法

北海道複数地域(赤平市 釧路市 札幌市 砂川市 奈井江町 美幌市)にて介護福祉スタッフに対してアンケート調査及び現場調査。赤平市では介護施設に複数回ずつ訪問。調査結果に基づき生涯教育研修会を開催、その効果を調査。教育用プログラムを作成。

#### 4. 研究成果

都市部では生涯学習を受ける機会が多いが内容が多様で参加しきれず、どの研修に絞り込むべきか混乱もあること、地方では機会が圧倒的に少ないことが明らかになった。しかし、地方での生涯教育活動を複数回にわたり行ってみると、リピーターとそうでない人、参加者の多い施設とそうでない施設といった差が目立ち二極化した。一連の検討から、教育の効果を上げるべく参加者を増やすためには会場での開催形式には限界があることが判明した。また、脳卒中に限った場合、分類、発症形式、危険因子・予防に関する知識は医療職よりは介護職のそれは一般市民に近いことが判明した。学習ニーズは高く、繰り返しで効果が発揮されるが効果の上がりやすい部分と効果の上がりづらい部分があることも判明した。これら調査結果は北海道で配布するテキスト(脳卒中あんしん連携ノート 3000部医療機関および患者に配布と脳卒中あんしん生活ガイドブック 8000部配布)の内容に反映され教育用ページが作成され、HPにも展開された。赤平市では参加者が会場での開催では参加者が増えず、市内の8割を超える施設に直接訪問し教育活動を展開したところ、市内介護スタッフの56.4%に単年で生涯教育研修を実現した。また、生涯教育の質を高めるために、研鑽した介護福祉スタッフを教育スタッフに育成し、赤平市 砂川市 奈井江町にて中学生および高校生の実習に教育スタッフとして参加(現在も継続中)することとした。プレゼンテーション技術が不足していることが判明し、研修した

介護福祉スタッフら自身(MSW 包括支援センタースタッフ 救急救命士)による学会発表を積極的に支援した。成果の一部は、学会にて報告し、その領域の総会でシンポジスト、パネリストに選ばれるなど高い評価を得た。また、新聞に何度も記事として取り上げられるなど注目され、学校から毎年オファーも得るなど研究成果は社会に還元され、地域社会においても十分認知されたと思われる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

1 松村晃寛, 今井富裕, 齊藤正樹, 久原 真, 下瀆 俊

原因不明のまま治療開始した頭蓋底病変の予後～多発性脳神経障害を呈した感染症を中心に～

臨床神経, 53:9-18, 2013(査読あり)

2 齊藤正樹, 板本孝治, 中村正弘, 中川原譲二, 三國信啓, 三浦哲嗣, 寶金清博, 深津恵美  
脳卒中あんしん連携ノートの進捗状況  
北海道医報 1134, 38-40, 2013(査読なし)

3 齊藤正樹, 岡田 靖

認知症 ナースと共有したい最新事情

BRAIN NURSING 29,77-81, 2013(査読なし)

4 鈴木知佐子, 清水悠以, 田邊谷徹也, 松井美琴子, 山本元久, 高橋裕樹, 篠村恭久, 齊藤正樹

Reversible posterior leukoencephalopathy syndrome を合併した全身性強皮症の一例  
Clin Rheumatol, 25:34-39, 2013(査読あり)

5 小林清樹, 齊藤正樹, 館農勝, 内海久美子, 古瀬勉, 森井秀俊, 齋藤利和

石灰沈着を伴う慢性神経原線維変化病(DNTC)が疑われた1例～最新の画像診断技術を用いた脳機能画像所見を含めて～

精神科 18, 223-233, 2011(査読あり)

〔学会発表〕(計19件 シンポジウム2 パネルディスカッション1)

1 白戸史子 齊藤正樹 永川ひとみ 佐藤美雪 下瀆 俊

地域包括支援センターが展開する介護従事者に対するAct-F.A.S.T.講習の効果

第39回日本脳卒中学会総会 2014年3月14日 大阪市

2 星野由利子 齊藤正樹 高橋美香 飯野智恵子 町田佳代 足羽希世子 深津恵美 小林 徹 武田良一 寶金清博

全道版「脳卒中あんしん生活ガイドブック」の作成

第 39 回日本脳卒中学会総会 2014 年 3 月 14 日 大阪市

3 大畑雅宏 齊藤正樹 山崎友敬 中村英保 山水輝彦 福士敦 小林茂樹 外山祐一郎 下瀧 俊

介護福祉従事者の参加する中学・高校生に対する Act-F.A.S.T.救急講習会

第 39 回日本脳卒中学会総会 2014 年 3 月 14 日 大阪市

4 齊藤正樹 大瀧雅文 木村輝雄 丹羽 潤 牧野憲一 齋藤孝治 鏡谷武雄 板本孝治 三國信啓 寶金清博

脳卒中あんしん連携ノートと web 登録は、教育と Quality Indicator による地域主体の医療計画を導く

第 39 回日本脳卒中学会総会 2014 年 3 月 13 日 大阪市

5 外山祐一郎、矢坂正弘、前田巨一郎、桑城貴弘、湧川佳幸、齊藤正樹、下瀧 俊、岡田 靖 非弁膜症性心房細動に伴う脳梗塞急性期における新規経口抗凝固薬投与の可否に関する検討

第 39 回日本脳卒中学会総会 2014 年 3 月 13 日 大阪市

6 齊藤正樹 川又 純 下瀧 俊

おひとりさま講習会参加者における認知症の理解 第 32 回日本認知症学会総会 2013 年 11 月 8 日 松本市

7 山崎友敬 山水輝彦 齊藤正樹 藤田智文中村英保 米地宏樹 佐藤靖宏 福士 敦 福田 太 小島昌公

中学生と高校生を対象とした脳卒中 act F.A.S.T.講習と地域介護福祉スタッフが関わった救命講習

第 16 回日本臨床救急医学会総会 パネルディスカッション 2013 年 7 月 12 日 東京都

8 松本久志 高橋府史 齊藤正樹 高杉和雄 福田慎也 菊地弘真 岩崎賢治

脳卒中プロトコール導入後のオホーツク中核都市における現状と今後の展望 - 北海道医療新聞報告を受けて -

第 16 回日本臨床救急医学会総会 2013 年 7 月 12 日 東京都

9 板本孝治、齊藤正樹、寶金清博 北海道地域連携クリティカルパス運営協議会

脳卒中あんしん連携ノート運用による脳卒中地域医療連携の現状 第 45 回北海道脳卒中研究会 2013 年 6 月 29 日 札幌市

10 齊藤正樹 山本和利 米増保之 櫛引晴子 伊藤郁子 加藤和彦 小松克也 杉野寿哉 村上友宏 外山祐一郎 鈴木秀一郎 松村晃寛 三上 毅 三國信啓 矢坂正弘

岡田 靖 寶金清博 下瀧 俊

NIH Stroke Scale (NIHSS) 医学部卒業実技試験 5 年間 502 名の結果報告 第二報 - 苦手なスコアはなぜ生じるのか -

第 45 回北海道脳卒中研究会 2013 年 6 月 29 日 札幌市

11 齊藤正樹 大畑雅宏 福士 敦 山水輝彦 山崎友敬 白戸史子 後藤みゆき 稲見保之 佐々木いつみ 川口和代 矢坂正弘 岡田 靖 下瀧 俊

脳卒中研修会により育成された地域介護福祉人材による中学生・高校生の脳卒中教育

第 45 回北海道脳卒中研究会 2013 年 6 月 29 日 札幌市

12 齊藤正樹 山本和利 米増保之 橋本諭 佐々木素子 瀬上朋宏 三上 毅 寶金清博 三國信啓 下瀧 俊

NIH Stroke Scale(NIHSS)医学部卒業実技試験 5 年間 502 名の結果報告

第 38 回日本脳卒中学会総会 2013 年 3 月 22 日 東京都

13 齊藤正樹 川又 純 下瀧 俊

認知症介護スタッフの服薬介助に対する困難感と剤型選択 第二報 勤務背景の違いによる検討 第 31 回日本認知症学会総会 2012 年 10 月 26 日 つくば市

14 齊藤正樹 大畑雅宏 及川佑介 福士敦 山水輝彦 山崎友敬 岡田 靖 矢坂正弘 下瀧 俊

介護福祉従事者への脳卒中研修会による地域の人材育成と中学生・高校生の脳卒中教育

第 38 回日本脳卒中学会総会 2013 年 3 月 21 日 東京都

15 板本孝治 齊藤正樹 西谷幹夫 木村輝雄 大瀧雅文 村田純一 三國信啓 中川原讓二 寶金清博

脳卒中あんしん連携ノートと IT 登録による北海道の脳卒中連携の現状

第 38 回 日本脳卒中学会総会 2013 年 3 月 21 日 東京都

16 齊藤正樹 及川佑介 大畑雅宏 米増保之 高橋 明 岡田 靖 矢坂正弘 姉川敬裕 吉田英人 下瀧 俊

介護福祉スタッフへの ACT-F.A.S.T.脳卒中研修と市民啓発は地域の脳卒中患者の来院までの時間を短縮する

第 37 回日本脳卒中学会総会 シンポジウム 2012 年 4 月 28 日 福岡市

17 齊藤正樹 中川原讓二 板本孝治 牧野憲一 吉田一人 岡 亨治 高橋 明 鏡谷武雄 丹羽 潤 寶金清博 北海道地域連携クリティカルパス運営協議会

北海道地域連携クリティカルパス運営協議会ノートによる脳卒中 risk 管理の標準化と共有 - 地域脳卒中テキストの機能を持つ「脳卒中あんしん連携ノート」 第 37 回日本脳卒中学会総会 2012 年 4 月 27 日 福岡市

18 齊藤正樹 川又 純 下濱 俊  
認知症介護スタッフの服薬介助に対する困難感と剤型選択による服薬アドヒアランス改善の可能性 第 30 回日本認知症学会総会 2011 年 11 月 11 日 東京都

19 齊藤正樹 及川佑介 米増保之 吉田英人 福士 敦 山水輝彦 藤田智文 榊佑介 中村英保 熊谷和政 浅井康文  
介護福祉士と社会福祉士に対する脳卒中救急教育 ACT - F. A. S. T. 講習コースの実施と効果分析  
第 14 回日本臨床救急医学会総会 シンポジウム 2011 年 6 月 3 日 札幌市

〔図書〕(計 7 件)

1 齊藤正樹 (編集代表)  
脳卒中あんしん連携ガイドブック 株式会社昇夢虹 2013 28

2 齊藤正樹 (分担執筆) アルツハイマー型認知症 経過・予後  
認知症ハンドブック医学書院 2013

3 齊藤正樹 (分担執筆) アルツハイマー型認知症 本人・家族への指導 認知症ハンドブック医学書院 2013

4 齊藤正樹 (分担執筆) アルツハイマー型認知症 医療従事者への指導  
認知症ハンドブック 医学書院 2013

5 齊藤正樹 筋クランプ (こむら返り)  
今日の治療指針 2011 デスク版 771, 医学書院, 東京, 2011

6 齊藤正樹 筋クランプ (こむら返り)  
今日の治療指針 2011 ポケット版 771, 医学書院, 東京, 2011

7 齊藤正樹 北海道地域連携クリティカルパス協議会編 (ノート開発責任者)  
脳卒中あんしん連携ノート 株式会社 昇夢虹, 2011 64

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :

番号 :  
出願年月日 :  
国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
取得年月日 :  
国内外の別 :

〔その他〕  
ホームページ等  
<http://hcp-meeting.jp/>

報道  
救急蘇生法を学ぶ 砂川中学校の 2 年生 医師らが講師担当 プレス空知 2013 年 9 月 7 日

実践通じ対処法学ぶ 介護事業所りんごの里 プレス空知 2013 年 8 月 3 日

砂川高校 3 年生有志 心肺蘇生法を学ぶ プレス空知 2013 年 4 月 20 日

札幌医大の先生招き 脳卒中の対応は プレス空知 2013 年 2 月 16 日

脳卒中の兆し見逃すな 赤平高生が注意点学ぶ 北海道新聞朝刊 2012 年 12 月 11 日

胸骨圧迫は大変 中学生悪戦苦闘 砂川医師ら招き応急処置 北海道新聞朝刊 2012 年 3 月 8 日

STROKE2012 開催される 週刊医学界新聞 第 2980 号 医学書院 2012 年 6 月 4 日  
[http://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA02980\\_03](http://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA02980_03)

6. 研究組織  
(1) 研究代表者  
齊藤 正樹 (SAITOH MASAKI)  
札幌医科大学・医学部・助教  
研究者番号 : 90295345

(2) 研究分担者  
下濱 俊 (SHIMOHAMA SHUN)  
札幌医科大学・医学部・教授  
研究者番号 : 60235687

(3) 連携研究者  
寶金 清博 (HOUKIN KIYOHITO)  
北海道大学・医学部・教授  
研究者番号 : 90229146